

## 12月メディア総局長定例記者会見要旨

### (1)放送100年 防災プロジェクト ～命をまもる 未来へつなぐ～（林メディア総局長）

最初は、年明けから新たに展開するプロジェクトについて紹介する。来年・2023年は、「関東大震災」から100年となる。当時、テレビやラジオは存在せず、混乱の中、流言飛語が飛び交い、人命救助や復旧も立ち後れた。その教訓から、2年後、初めてのラジオ放送が開始された。

日本の国土がますます激甚化する災害に直面するなか、NHKは改めて「防災と正確な情報伝達」という創立の原点に立ち返り、2023年から、ラジオ放送の開始から100年の節目となる2025年にかけて、『命を守る未来へつなぐ』をテーマに、国民の命と暮らしを守る様々な取り組みを展開していく。

NHKはこれまで、大雨の時期の「水害キャンペーン」など、様々な防災・減災キャンペーンを行ってきた。今回のプロジェクトでは、これまでの取り組みで得た知見を多角的に連動させ、次の100年につなげていく。

今回の防災プロジェクトでは、放送・デジタル・アーカイブスを駆使して、NHKスペシャルなどの番組やニュース企画、デジタルなどで、地域放送局とも連携し、防災・減災に役立つ情報の提供などを進める。

第1段として、NHKスペシャル「`都市宅地、崩壊 見過ごされた盛土リスク」を放送します。そのあとの予定についても、決まり次第、詳細をお知らせする。

毎週日曜日に放送している「明日(あした)をまもるナビ」では、「関東大震災100年」のシリーズ企画として、「首都直下地震に備える」というテーマで4本の番組を1月に放送する。番組ホームページには、防災や減災、暮らしの再建に役立つショート動画を多数、掲載しているが、今回も放送後に「住宅」「火災」「避難」に関する動画を公開する予定。防災への備えの1つとしてお役立ていただきたい。

(詳細は報道資料を参照)

### (2)第73回 紅白歌合戦 審査員発表（林メディア総局長）

第73回NHK紅白歌合戦が、いよいよ来週に迫ってきた。ゲスト審査員が決まったので、発表させていただく。今年2022年を象徴するみなさまにNHKホールにお越しいただき、審査をお願いすることになった。会場やテレビの前の視聴者のみなさま、そして出場歌手の方々といっしょになって、盛り上げていただく。2022年のさまざまな出来事に思いをはせていただき、よい年越しにつなげる、そんな紅白になればと思っている。

あわせて、紅白歌合戦の優勝チームを決定する審査方法についてもお知らせする。視聴者のみなさま、NHKホールでご覧のお客様、そしてさきほどご紹介した、ゲスト審査員のみなさまの投票を3つのグループとして、それぞれ紅組・白組のどちらが良かったかを決めていただく。そして、それぞれの勝敗を1ポイントとして、ポイントの多い方を勝ちとする。テレビを通してご投票いただく方には、昨年に引き続き、紅白をご覧いただいた時間の長さが長いほど“投票できる票の数”が増えていくくみを採用する。視聴者のみなさまも、会場やゲスト審査員といっしょに審査に参加することで、さらに紅白をお楽しみいただけたらと思っている。

(詳細は報道資料を参照)

### (3)「ゆく年くる年」テーマと中継場所決定（熊笹御堂メディア戦略本部長）

全国各地の年越しの情景をお伝えする「ゆく年くる年」について。今回のテーマは、「災禍を超えて 未来へつなぐ」。今年、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻で、世界の平和が脅かされた1年だった。国内では、円安や物価高で経済や暮らしが大きな影響を受けた。こうした中、未来へと祈りをつなぐ10か所から中継を行う。進行役を務めるのは、「おはよう日本」キャスターの首藤奈知子アナウンサーと、三條雅幸アナウンサー。キーステーションは、神奈川県鎌倉市の「鶴岡八幡宮」。今年、大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の舞台になった場所だ。コロナ禍で減少した観光客が戻ってきた群馬県の草津温泉からは、湯煙ただよう年越しの情景をお伝えする。東京・港区の「聖オルバン教会」では、ウクライナから避難してきた人たちの聖歌と、祖国への祈りに耳を傾ける。そして、広島の世界文化遺産、「厳島神社」。ことし保存・修理工事を終えた大鳥居を、ライトアップして紹介する。このほかの中継地も含め、新年が安心して過ごせる年になるようにとの日本各地の祈りを、生中継で伝えていく。どうぞご期待いただきたい。

（詳細は報道資料を参照）